

梅窓院通信

施餓鬼号

No.58

2012/04/01

青山



現住職の祖父、中島真孝上人が僧侶となった埼玉県杉戸町にある倉常寺の閻魔像。

住職挨拶

梅窓院第二十五世

中島 真成



皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

この四月には大本山増上寺で法然上人八百年御忌大法要が厳修されます。東日本大震災により一年延期されましたが、梅窓院からも詠唱を奉納、私も御忌法要の何座かに随喜させていただきます。

さて、今号の表紙を飾るのは閻魔さまです。私が生まれたお寺、埼玉県北葛飾郡にある倉常寺に鎮座されている像で、檀家さんが平成のはじめに塗り直された迫力ある姿の閻魔さまです。私は四歳までしか倉常寺におりませんでしたので、この怖い顔の記憶はございませんが、「閻魔さまに舌を抜かれるぞ」と怒られていたに違いありません。また、施餓鬼会は餓鬼道へ堕ちた餓鬼への施しの供養法要ですが、餓鬼道へ堕ちるか否かは閻魔さまの判断ひとつ。そう思うと、大人も子供も自然と手を合わせて拝むのが閻魔さまですね。

昨年からの開山忌、梅窓院の実質開山上人となられる南龍上人への報恩謝徳法要ですが、法要後に昨年同様、橋本忠樹さんに能を奉納していただきます。昨年、多くの参詣をいただきましたので、今年は祖師堂で奉納いただくことに致しました。

今年の二月に近隣の浄土宗寺院の先輩方と一緒にインドに行つて参りました。お釈迦さまの仏跡を訪れたことのある方ばかりでしたので、アジャンタとエローラという石窟寺院群を目的地として仏教、ヒンドゥー教、ジャイナ教の石窟寺院や壁画を見て参りました。

仏教はインドで生まれましたが、現在はインドではヒンドゥー教徒が約八割を占め、次いでイスラム教徒、仏教徒はほんの数パーセントとなっています。現在仏教国というタイやカンボジア、そして日本が挙げられますが、それぞれ伝播の経路や在来の宗教と結びつき、インドで生まれた原始仏教とは大分異なるものになっているようです。

お施餓鬼

五月十九日(土)

施餓鬼会法要(塔婆回向)

午前九時～ 祖師堂

※塔婆のお申込み状況により、時間は変更する場合があります。

別時念仏会／半齋供養

午前十一時～ 本堂

お齋(お) (お食事を頂きます)

午前十二時～ 観音堂

御説教

午後一時～ 祖師堂

講師 宮城教区 浄念寺住職 高橋 清海 上人

大施餓鬼会法要

午後二時～ 祖師堂

- ・長時間にわたる法要の為、途中からの参加も可能です。
- ・塔婆回向(お名前の読み上げ)は午前九時からの法要で行います。
- ・全ての法要終了後にお塔婆をお渡し致します。

施餓鬼によせて

春の暖かさを存分に感ずる心地よい季節となりました。しかし、今年は何十年に一度という大寒波にみまわれ、北海道や東北、北陸山陰といった日本海側の地域は記録的な大雪でした。

昨年の東日本大震災と同様に、大いなる自然の猛威の前には我々人間の無力を痛感せざるを得ません。このような壮絶な冬があり、絶望感の中、自然に翻弄され、自分の生命さえもままならぬ程の迷いの世界であっても、それでもめげずに粘り強く、毎日住民総出で力を合わせて雪寄せをしたからこそ、助け合いの心、共に生きる精神が養われ、やがて、皆で雪のない春を迎えることもできるのであります。

そして、この現世よりも更に迷いに苦しむ世界と言われるのが「餓鬼道」です。餓鬼の世界は、一度落ちてしまうと自力では脱することができない世界とされており、しかし、そのような三悪道と呼ばれる世界にも救いの光を照らされるのが阿弥陀仏であり、お念仏の力といわれております。目には見えない存在ではありますが、身近の困っている方を助けることと同じ気持ちでお念仏をお唱えし、諸共に共に苦に沈む世界を解脱して雪解けの春を迎えるが如く、共に生きるという和みの社会にしたいものです。(法務・津村)

回向のお申込み方法とお知らせ

◆施餓鬼塔婆お申込み方法

御塔婆 御回向料 …… 一本／一万円

- ・同封のハガキにご記入の上四月三十日(月)必着でお申込み下さい。
- ・施餓鬼会法要に参加される方は、出席人数も合わせてご記入下さい。(当日、出席人数分のお弁当をご用意致します。)
- ・御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いは出来ません。)

第55回
念仏と法話の会
2月10日(金)



本堂にてお念仏の様子

二月の行事報告

「せがき子どもひろば」のご案内

お施餓鬼の当日、梅窓院内に「子どもひろば」を設けます。保育士による絵本の朗読や、折り紙遊びなどを予定しております。是非この機会に、お子さまとご一緒にお参りください。



※子どもひろばに関するお問い合わせは
青山文化村まで。
TEL 03-3404-8588

昨年のこどもひろばの様子

開山忌法要

六月九日(土)

梅窓院を開かれた開山南龍上人へのご供養と報恩謝徳の法要を執り行います。また、法要後に能楽を奉納します。なお、法要と能楽ともに一般の方も参列、観賞できます。ともに費用はかかりませんので、御家族・お友達お誘い合わせの上お越し下さい。

法要

午後三時～ 本堂

※法要修了後、休憩がござります。

能楽奉納

午後四時～ 祖師堂

演目「吉野天人」



能楽演者のプロフィール

橋本 忠樹(はしもと ただき)

1974年京都生まれ。

東京藝術大学音楽学部邦楽学科卒。観世流シテ方橋本磯道(重要無形文化財保持者)長男。

父・磯道及び片山幽雪(日本芸術院会員、人間国宝、文化功労者)、十世・片山九郎右衛門に師事し、3歳で仕舞「老松」にて初舞台。10歳の時、能「岩船」で初シテ。大学在学時には、観世清和(観世流シテ方26世宗家)、故・藤波重満、野村四郎、観世恭秀、関根知孝に師事する。大学卒業と共に九世・片山九郎右衛門(現・幽雪)師の許で内弟子修行を積み2001年に独立する。2003年祇園祭宵々山の日に京都「新風館」のリキウホールにて新風館初の演能を行い、若者に能楽の魅力を伝える新たな試みに挑戦、その後もバーや野外での能公演など、若者が気軽に能に触れられる公演を行っている。

2006年のチュニジア国での初の能公演から、世界各国で能を公演している。また、大学や日本各地での稽古活動、「小さな子供のお稽古教室」など、日本の伝統文化である「能」を幅広い世代に伝えている。

橋本聲吟社を主宰するほか、公益社団日本能楽協会会員、公益社団京都観世会会員、京都市DO YOU KYOTO?大使など、幅広く活躍している。

梅窓院の開山上人について

お寺が新しく建てられる際、その一番初めの住職を開山上人といいます。梅窓院の開山上人は、記録の上では増上寺の第十二世、観智国師存心になつていますが、近年の研究結果、実際には、存心上人は梅窓院の建立の際には既に亡くなつており、開山上人ではないと指摘されています。

観智国師存心は徳川家康の帰依を受けた著名な高僧で、梅窓院を建立した開基となる青山家としては、青山忠成公との親交が深く、しかも家康と親密な関係の存心上人を、形の上での開山上人として幕府へ届け出る必要があつたようです。また、当時の法律上、新たな寺院の建立が禁じられていたという事情も大きく影響していると言われていました。

では現実に、梅窓院の初めの住職はというと、戴蓮社頂上人冠中南龍老和尚が開山上人になります。しかし、上人についての詳しい資料がありません。わかっているのは上野國(こうずけのくに)今の群馬県)の武家の出身で、父親は井伊掃部頭殿の家来、津田康衛門。浄土宗の檀林といわれる神田(現小金井)の幡随意院や群馬県太田の大光院、また芝の増上寺で修行されたこと。梅窓院建立工事に携わり、その功により開山上人になったこと。そして、寛文十(1670)年、六十七歳にて遷化された、ということぐらいです。

梅窓院では毎朝の勤行の時には、南龍上人に報恩感謝の回向をおこない、さらに年に一度はそのお徳に供養のこころをささげるために開山忌を行っています。



たいれんじゃちょうよしょうにんかんちゅうなんりゅうこうかしょう
戴蓮社頂上人冠中南龍老和尚

はなまつり

4月6日(金)～8日(日)
 寺院棟2階 本堂
 寺院棟2階本堂エントランスに花御堂を、休憩所には甘茶をご用意しております。



花御堂

団体参拝旅行

一愛知県 岡崎市一
 4月20日(金)～21日(土)
 徳川家康公の生母、於大の方の故郷を巡る旅です。
 ※詳しくはお問合わせ下さい。



於大まつりの様子

増上寺法然上人八百年御忌大法要

4月1日(日)～11日(水)
 増上寺において、御忌法要(浄土宗の宗祖法然上人の忌日法要)が盛大に執り行われます。今年は、昨年の東日本大震災で延期された法然上人八百年御忌大法要もあわせて行われます。10日は御忌詠唱奉納大会が開かれ、梅窓院詠唱会の皆様が参加致します。皆様も是非参詣され、法然上人をしのび、ご恩徳に感謝いたしましょう。



平成22年の様子

施餓鬼会法要

5月19日(土)
 午前11時より 本堂および祖師堂
 ※詳細は中面をご覧ください。

開山忌法要・能楽奉納

6月9日(土)
 午後3時～ 本堂および祖師堂
 ※詳細は中面をご覧ください。

第56回 念仏と法話の会

6月5日(火)
 受付開始 12時～
 別時念仏／法話／茶話会
 法話:「三心四修」
 講師 熊本教区 遣迎寺住職
 山崎 龍道 上人

お知らせ

護寺費・年会費・管理費の振込について
 平成23年4月ご入金分以降は、「振込控え」を請書の替わりとさせていただきます。ご事情により当院の請書が必要な方は、郵便振替の方は通信欄に、コンビニ振込の方は、お手数ですがお電話かお手紙にてお申し付けください。尚、請書の郵送に4週間程かかる時がありますので、ご了承ください。(ご持参される方には、これまで同様に請書を発行致します)

消防訓練
 梅窓院では2月28日(火)に赤坂消防署の指導と監修のもとに消防訓練を行いました。



秋彼岸写真コンクール開催のお知らせ

今年もお彼岸ライブにて、写真コンクールを開催致します。ライブ会場を皆さんのお写真で飾りませんか?当日会場にて人気投票を行い、1位の方には景品を差し上げる予定です。
 詳細については6月1日発行の『青山』お盆号にてお知らせ致します!

発行 梅窓院
 発行日 平成24年4月1日
 発行人 中島 真成
 編集 青山文化村
 住所 〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
 電話 03-3404-8447
 F A X 03-3404-8446
 ホームページ http://www.baisouin.or.jp/
 E-Mail jodo@baisouin.or.jp
 題字 中村康隆元浄土門主
 総本山知恩院第八十六世門跡



梅窓院より報告
 前号にて報告いたしました、梅窓院三大チャリティーイベントのお布施や入場料、チケット代金など百六万四千五百七十一円を無事に浄土宗災害対策本部へ寄付致しましたことを、ご報告申し上げます。